

木場城復活プロジェクト

木場城美術展

戦国末期、ここに『木場城』があった。

1581年、上杉勢の前進基地として造られたもので、新発田勢と戦い勝利した。上杉家は越後を統一、新潟湊を手に入れ、蒲原を治めた。1598年、上杉家の会津移封に伴い、廃城となった。今は田園が広がり、痕跡はない。ただ、『此附近 木場城址 推定地』の柱が建つのみである。木場城美術展は、いま木場に住む人や縁のある人が、四百余年前の木場城やこの地に思いをはせ、目に見える形で再現を試みるものである。



黒崎中美術部による屏風(制作中)

「木場棒踊り図」棒踊り(新潟市無形文化財)は、一説では廃城後、農民達が武道の型を残そうと、踊りに託したといわれる(「木場の郷土史」より)

此附近 木場城址 推定地

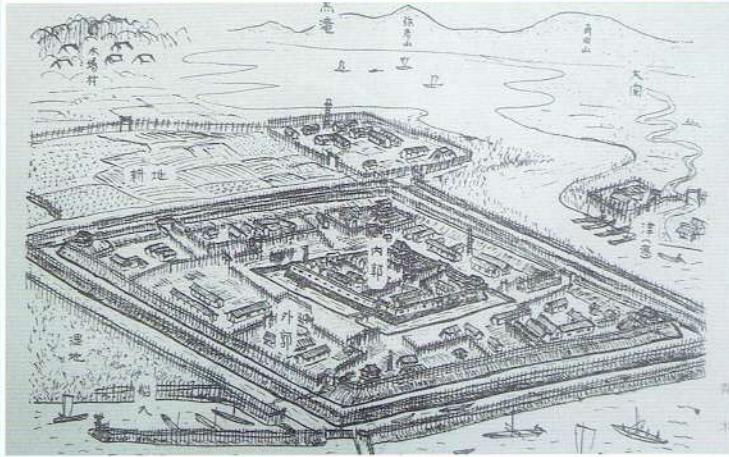
日時: 2018年8月18日(土)~9月2日(日)
10:00~16:30(月曜日は休館)

会場: 旧武田家

(新潟市西区木場2748-1 新潟市文化財センター敷地内)

入場: 無料

主催: 木場の郷土を愛する会 共催: 木場連合自治会
(水と土の芸術祭市民プロジェクト)



『越後木場城』で著者青木宏が描いた木場城の想像図。同書は、木場城を、木場の西端にあり、南北270m、東西250mの土塁に囲まれ、中心に100m四方の内郭があったと想定している。数千人の兵を収容でき、度重なる戦にも一度も落城しなかった、と記されている。また、廃城時の木場は、村々志色書上帳に、寺1、社1、百姓175戸1303人、水呑9戸59人と記された、大きな村であった。このあたりからは、陶磁器やフイゴ羽口などが出土している。助城、土手丸、くるわなどの城郭に関係がありそうな地名が言い伝えられている。新潟県教育委員会では『木場城跡』として登録している。所在地は新潟市西区木場1872～1898他。城跡の中心に『此附近 木場城址 推定地』の木柱を、地域が平成28年に建てている。

出展作家と作品

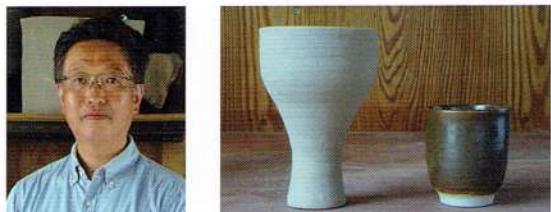
*作品は制作途中、参考、イメージです

山際辰夫 (ヤマギワ タツオ)



会社を退職後にしめ縄づくりを始める。しめ縄等の正月飾り、ミニ俵、ねこちぐら、ネズミ、トンボなどを稻や竹を使って作る。解散した黒埼民具保存会の最後の会長を6年務める。民具づくりの第一任者。北方文化博物館で展覧会を開く。昭和3年生まれ。木場下組在住。

柏 繁行 (カシワ シゲユキ)



平成元年ほんま陶芸教室で陶芸を始める。黒埼町公民館で陶芸クラブ陶和会を主宰し、焼き物の世界に。近年は氷彩(表面が氷のように見える)を得意とする。平成29年新潟県芸術県立美術館賞を受賞。新潟市美術協会理事、陶和会会长、木場积迦堂焼「柏窯」。木場新田在住。

一箭憲光 (イチヤ ノリミツ)



ドローンを駆使して、木場や黒埼などの各地を空中撮影している。木場下組在住。写真の中心が木場城跡。

山際ハツ (ヤマギワ ハツ)



夫の辰夫とともに民具や農作業衣などを作る。昭和9年生まれ。木場下組在住。

島津崇之 (シマヅ タカユキ)



鳴津山満行寺第16代住職。満行寺は永禄6年(1561年)の創立といわれる真宗大谷派の古刹。木場上組在住。なお、掲示されている書は、先代の島津恵麟(いりん)住職。

宗村称光 (ムネムラ ショウコウ)



学制以来何十年ぶりに筆を持って、書壇院で学んで13年、毎年12月に開催する書壇院展(東京都美術館)出品に向け練習を重ねる日々。新潟県書道协会会员。本名:量子。木場八割在住。



黒崎中学校美術部

顧問:堀口真弓 部長:刑部帆貴

屏風画制作について、生徒の声

○木場城や棒踊りを描くために、様々な資料や写真を見て、イメージを膨らませた。

○棒踊りについては、学校の武道場で、剣道部の皆さんに何種類もポーズをとってもらい、写真に撮って参考にした。

○初めて屏風に描いたのでおもしろかった。

黒崎中美術部は、堀口先生の指導のもと、大きな絵画を制作して、黒崎市民会館や黒崎南部公民館に展示してきた。今回は、屏風に挑戦。古い金屏風に、『越後木場城』に掲載された木場城想像図と(故)佐藤勇さんが撮った木場の棒踊りの写真を参考に描いた。棒踊りには剣道部にモデルになってもらつた。制作期間は約2か月。



3年生

(故)佐藤勇 (サトウ イサム)

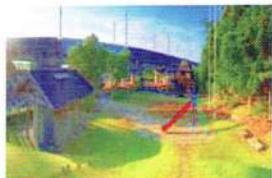


昭和16年生まれ。20歳のころからカメラを持ち始め、今年4月に亡くなるまで、木場を撮り



続けた。昭和30年代から平成までの、木場の風景、農作業や暮らし、台風や水害の被害、道路や排水工事、催し物や文化財、子どもや人々など実に貴重な写真が多い。木場上組。

山際マリエ (ヤマギワ マリエ)



平成12年木場小学校卒業。高校まで新潟で過ごした後、名古屋芸術大学洋画コースへ進学。大学卒業後、2010 NIIGATA オフィス・アート・ストリート 優秀賞受賞。現在は東京でwebディレクターとしての活動。ゲームのロゴデザインやwebサイトの制作などを行っている。木場八割生れ。

亀倉 芸 (カメクラ ノリ)



美術家。祖父、亀倉蒲舟は木場に工房を構えた彫金家。父は金属造形作家の亀倉康之。



木場に生まれ、現在新潟市西区に在住。個展を中心活動。金属を素材に用いる事が多いが、ジャンルを超えた作品を発表している。水中写真を撮っていた時期もあり、現在の作品にも海や水が度々登場する。体験を基にした宇宙観や生命をテーマにしたものが多い。今回の作品は「木場」→「気場」と捉え、時を越えてエネルギーを発信しているこの地を表現する。

基村英行 (モトムラ ヒデユキ)



木場上組生まれ。昭和63年、木場小学校卒。いがた映画塾講座受講。仕事の傍ら、実験映像、コマ撮りアニメなどを制作。新潟市美術館の企画展「アナタにツナガル」に、作家・神林美樹とのコラボレーション映像が参考出展される。旧黒崎町を題材にしたフリーペーパー「クロ新聞」を不定期発行する。新潟市中央区在住。木場の城はこんなであったろうと想像しながら作品をつくってみました。

高橋郁丸 (タカハシ イクマル)



新潟の歴史や伝説、昔話などを調査し、わかりやすくマンガやイラスト、講演等で紹介している研究者。國學院大學栃木短期大学卒業。放送大学教養学部卒業。新潟妖怪研究所所長、新潟県民俗学会理事、新潟市鷺環境研究所協力研究員。出版物に「新潟の妖怪」「絵草子酒呑童子」「まんが以仁王ものがたり」など。新潟市中央区在住、祖母は木場出身。戦国時代。低湿地帯の新潟に、どのような城があったのか。幻といわれる木場城を想像してイラストで描いてみたい。



『越後木場城』昭和39年黒崎村教育委員会発行。著者は当時、役場職員の青木宏。この本で、諸説あった木場城の存在と位置を推察した。市内の図書館で読めます。

木場城（略史）

天正 6(1578)年 3月13日	上杉謙信没す
天正 8(1580)年 5月22日	上杉景勝、山吉玄蕃丞景長(以下、山吉景長という)に木場の土地を与えて木場城の築城を命じる
天正 9(1581)年 6月 1日	新発田重家、新潟沖の口の運上を横領し、寄居島と沼垂に城を築く
天正 9(1581)年 6月22日	景勝、木場城の本丸の将に蓼沼藤七を、二の丸の将に山吉景長を命じる
天正10(1582)年 3月20日	木場城を新発田勢が襲うが撃退する
天正11(1583)年 2月 8日	木場城を新発田勢が襲うが撃退する
天正11(1583)年 3月17日	景勝、木場城の守備強化を命じる
天正11(1583)年 3月20日	新発田勢が再び木場を攻める
天正11(1583)年 3月21日	景勝、春日山城から木場城へ向かう者に往来過所状(通行証)を与える
天正12(1584)年 7月27日	直江兼続、新潟に在陣している武将に港の監視と木場城警備の協力を命じる
天正13(1585)年 5月29日	景勝、木場城に鉄砲玉と火薬を送る
天正14(1586)年10月27日	木場城の將山吉景長、新発田勢の新潟と沼垂城の大将を討ち取る
天正15(1587)年 6月 1日	景勝、新発田攻撃に当たって木場城に在番の制・撻を定める
天正15(1587)年 8~10月	景勝、総攻撃開始、重家の属城を落とし、10月25日に新発田城遂に落城、重家戦死、越後統一なる
文禄元(1591)年 6月 2日	景勝、秀吉の命により朝鮮に渡り熊川城を修築、木場城より山吉景長同心36人を派遣
慶長 3(1598)年 1月10日	豊臣秀吉、景勝を越後より会津に移封し、佐渡、岩代、羽前の領地を与える

重家討伐後の約10年間は平穏無事に暮らせる時代となり、木場城は水城の特徴を生かして、新潟の三ヶ津である蒲原津と沼垂津と新潟津を監視し支配する番城として使われます。

しかし、慶長3年1月に上杉景勝は、豊臣秀吉によって会津に移封、国替えさせられたため、18年にわたって存立した木場城は廃城となります。

会場案内

旧武田家(新潟市西区木場2748-1 新潟市文化財センター敷地内)

- 木場バス停から1.9キロ(便数少)
- 鳥原(とっぱら)高速バス停から3.5キロ
(三和第一交通 tel.025-377-2506)
- 北陸道黒崎スマートインターから1.3キロ
- JR越後線寺尾駅から6キロ
- 木場城跡は旧武田家から西へ900m、集落の端



旧武田家(新潟市指定文化財)
甲斐の武田家にルーツがあり、18世紀前半に建つ
た新潟市にある最も古い民家



木場城跡

新潟県教育委員会に「木場城跡」として登録され
ている。このあたりが城の中心と推定されている

主催・お問い合わせ:木場の郷土を愛する会(担当:五十嵐)

tel.080-1141-8088 eiga.arashi@gmail.com

木場の郷土を愛する会は、木場及び地域の文化発展のための活動をしている。2015年
「木場・亀倉展」を開催。会長・大谷一男、副会長・五十嵐芳彰、事務局長・五十嵐政人